

ほろ中さん

330 ボケた!



大崎短歌会

兼題「自由・ススキ」

- 手摘みした尾花をビンに挿し月光に
昭和の活気眼裏燃ゆる
川崎健一
- あちこちの土手の尾花の咲き初めて
猛暑の夏のやっと終りぬ
穂園芳江
- 野あそびに薄穂手折り野蒜のびるつむ
幼き頃の秋の思ひ出
実吉安仁
- 拉致されし人ら齒ぎしりせむものか
恋ひし故国の波打つ岸辺
原田葉子
- 晩秋の野辺に賑わうすすきの穂
こよなき友と何を語らふ
栞山重子
- 候補者の白き車も穂芒も
染めて夕日の今沈みゆく
本後淑子

夕陽浴び小径歩いて秋のかぜ
エビ色薄儂く揺れる

井元かず子

人恋し里にも尾花をばなそよぐ土手
やはらの秋に抱かれ夢みん

馬場みさ子

芒穂の揺れいる中に立ち並ぶ
太陽光は秘密基地めく

山下海征

幸子ちゃんにもらしいススキ卓上ここ
朝夕眺め秋を惜しまん

坂元つる子

薩摩郷句

兼題「朝日」

- 朝日映え 鼻高だこ帰港もどい 大漁旗たいりよばた
(唱) 大漁大漁たいりよたいりよち きらきら朝日
上村牛歩

あん時も 朝日があつた 能登ん明け

(唱) 今も変わらん 朝日が昇つ

藤元鬼瓦

海かいの 産けれた朝日い 息いくば呑の

(唱) ゆつくい昇いい 大ふつとか朝日

諸木小春

志布志湾 朝日が昇つ 今日きも平和

(唱) 有難あいがてこつじや 平和な日本

二見愚楽満

早よ起きれ 破れ障子かい 来た朝日

(唱) 眩めはい思ともえば 昼前ひいまえじゃつたつ

北村虎王

貧乏びんぼうじゃが 朝日いじゃろそな 女房かけ恵つ

(唱) 貧乏ひんどま見せん 有難あいがて女房おかた

上窪小絵

散歩途中 朝日のぼが昇つ ついおが拝ん

(唱) 今日きもよろしゆちゆ言て 手をば合わせつ

西ノ園ひらり

朝日よか 先まき目めが覚めむい 老人としなもん者

(唱) 四時よじな目覚めめつ ラジおオと遊あつ

遠矢耐多

丈夫じよつな五ご体 朝日を浴びつ 健さかし婆ばば

(唱) グラらンドどんして 元もろ氣を貰つ

長重リリー

良よか気分 朝日を浴びつ ウうオーキング

(唱) 今朝けさも元もろ氣で るるん散ち歩

満石うらら